

JOMF 派遣医師便り (2016. 7)

◆ジャカルタ◆

チルボンへ (No.3)

JJC 医療相談室

伊藤 通敏

バティック (Batik) とは、インドネシアの民族衣装です。

バティックは 2009 年 10 月 2 日、国連教育科学文化機関 (UNESCO) の無形文化遺産に認定されました。バティックには、製作工程において、種類があります。

最も珍重されるのは手書き (Batik Tulis) のもので素材が絹のものです。最も高価。

バティックの制作には緻密な作業工程が幾度も繰り返され、数週間から数カ月、なかには 1 年以上もの時間をかけて、1 枚の作品が仕上がるのです。

また同じもの 1 枚もないことになります。

最も安いものは、バティック風の模様を染めたもので、本来はバティックとは呼べない工業製品でプリント生地 (Batik Print) が大量生産されています。

① **Batik Tulis** バティック・トゥリス (手描きバティック)

模様すべての手描きによるロウケツ染めです。

② **Batik Cap** バティック・チャップ (型押しバティック)

チャップという銅製のスタンプで蠟付けを行います。手描きに比べると比較的制作工程を短縮できますが、人による手作業の為、手間暇はそれなりにかかっています。

③ **Batik Kombinasi** バティック・コンビナシ (コンビネーション)

型押しと手描きの模様を組み合わせたものです。

④ **Batik Print** バティック・プリント (プリント)

バティック風の模様を染めたもので本来はバティックとは呼べない工業製品以上が、チルボン行きの前に仕入れた、バティックについての知識です。

さて、いよいよお店巡り開始、まず、トゥルスミの一軒目の店へ。

その店には、気に入ったバティックが見当たりません。品数も多くありませんでした。

少し歩いて、二軒目の店に入ってみると、その店の四方の棚には、

バティックの布が、ぎっしりと積み上げられています。圧倒されてしまいました。

しかし、ほとんどが女性用で、一つの棚の一行だけが、男性用と分かり、

あ～、そうだよなと納得した次第でした。(主に女性が、服生地を買いに来るのですから。)

一つの棚の一行といえども、布を一枚一枚広げて見ていくのは大変。

好きな色の紺か黒かと決めて、見ていく事とします。

何枚か見ていく内に、気に入った紺のバティック・トゥリスの布が、あるじゃないですか。

素材は絹。値段はそれなりにします。お店で出されたお茶とお菓子をいただき、

一息入れた後、少し考えることにし、お店を後にしました。

あともう一軒、お店を覗いてみましたが、そこには、日本人観光客の団が来ており、値段も観光客用で、とても手の届く物がありません。すごすごと退散。日も暮れてきたので、ローカルバスに乗り、ホテルに帰る事としました。

[以下、続く]